

農学職の業務内容

1. 島根県の農業の現状

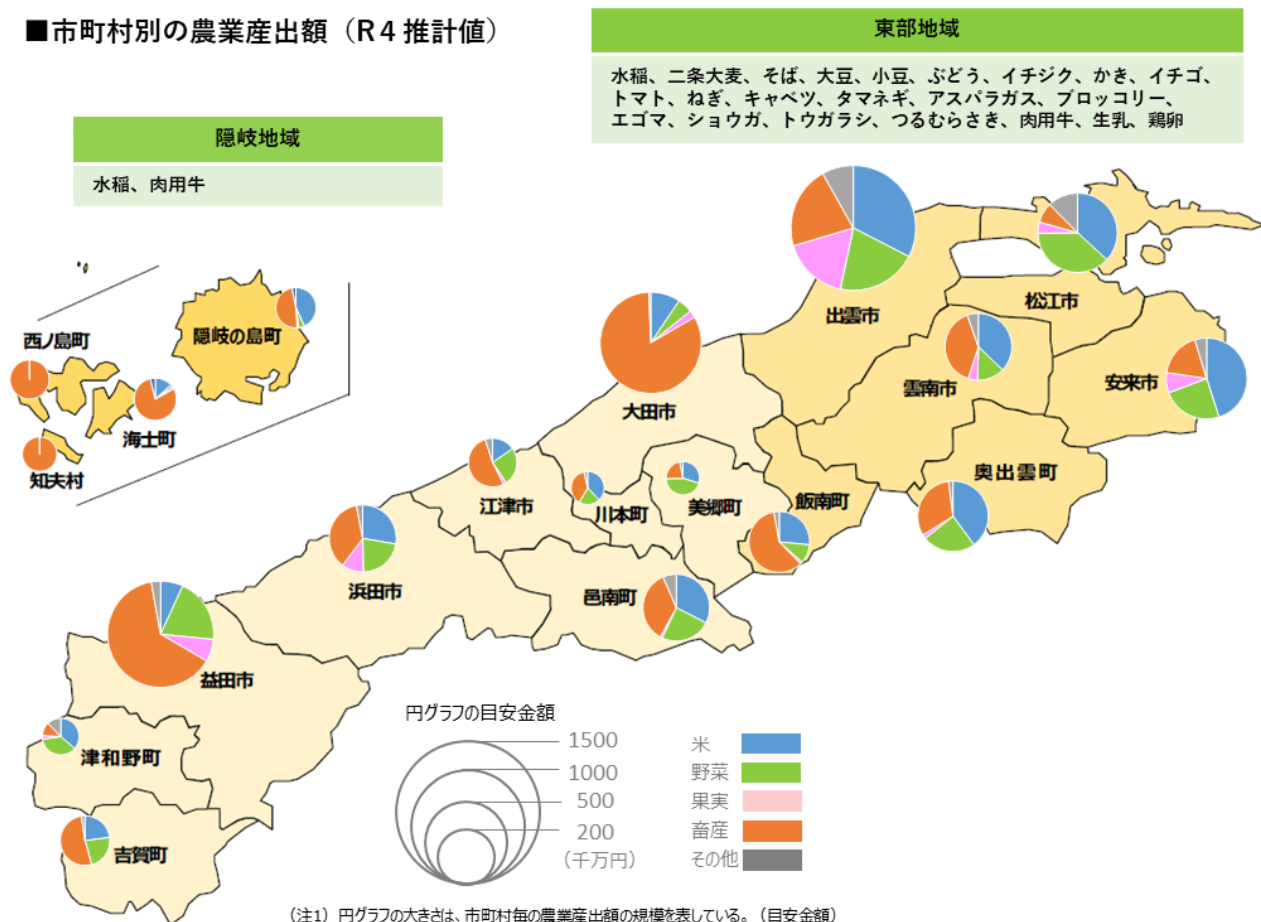
(1) 農業の概要

主な農産物は、水稻を中心に、ハウスによる加温栽培面積が日本一のデラウエア、西条柿をはじめ、トマト、キャベツなど多くの品目が栽培され、県内はもとより県外市場に出荷されています。

農業産出額は、676億円（令和5年）であり、昭和59年のピーク時と比較すると約6割となっていますが、令和2年以降、園芸作物の生産面積拡大や肉用牛子牛の頭数増加などにより、増加傾向にあります。

品目別では、米（174億円）、生乳（96億円）、肉用牛（93億円）などが上位を占めており、園芸品目では、ぶどう（31億円）、トマト（17億円）、ほうれんそう（12億円）、ねぎ（10億円）が10億円を超えています。

■市町村別の農業産出額（R4推計値）



(2) 農業の主な特徴（強み）

○「^{おい}美味しまね認証」経営体数は全国 5 位（R6.3月末現在）

県版GAP認証制度である「美味しまね認証」(*)を平成21年に創設し、全国的にもいち早く推進してきました。

(※) 産品が県の定めた生産工程管理基準（食品安全、環境保全、労働安全等）に基づき生産されていることを認証する認証制度



「美味しまねゴールド」
まねっこコラボマーク

○「有機農業」の耕地面積に対する割合は全国 3 位（R5.3月末現在）

全国に先駆けて、県立農林大学校に有機専攻課程を設置するなど、先進的な取組を進めています。



○「しまね和牛」肉質日本一

令和 4 年に、全国の銘柄牛が肉質を争う 2 大会で、全国 1 位に輝きました（同じ年に同一ブランド牛の 2 冠達成は全国初）。



(3) 県の取組の方向性

島根県では、第 2 期島根県農林水産基本計画（R7年度～R11年度）において、「持続可能な農業・農村の実現」に向けた将来ビジョンと基本目標を設定し、その達成を目指して、「重点推進事項」と「重点推進事項を進めるため取組」を進めています。

<将来ビジョン・基本目標>

① 将来ビジョン

可能な限り早期に農業産出額100億円増を目指す
〔基準：629億円（H28年）〕

計画期間における目標

設定する重点推進事項において、効果額100億円生み出す
※効果額は、前計画の取組と第2期計画の新たな5年間を合わせた額

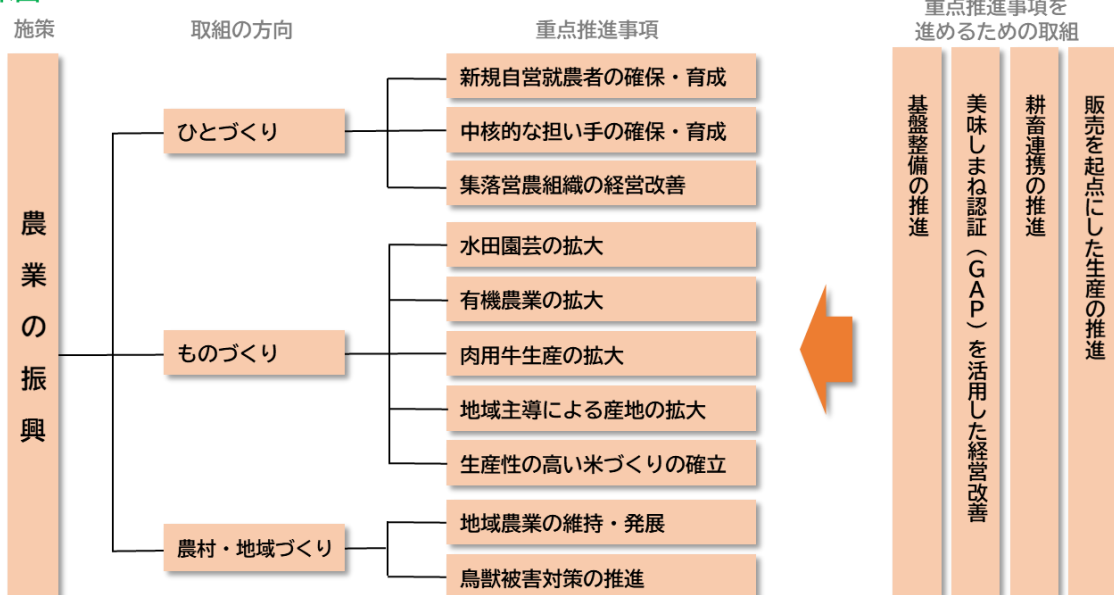
② 将来ビジョン

10年後に担い手がいる農業集落の割合80%
〔基準：70%（R5年）〕

計画期間における目標

5年後に担い手がいる農業集落の割合75%

<体系図>



2. 業務内容

【普及指導員】

農業の現場で、農業者や産地が抱える課題の解決を支援します

経営発展を目指す担い手への技術導入や経営管理の支援、産地や地域の維持・発展に向けた営農体制づくりなどの活動を行います。

現在どんな仕事を担当していますか？

新規就農者の確保・育成と果樹の生産振興に関する業務を担当しています。

就農希望者や新規就農者に対して、市町やJA等の関係機関と連携し、就農までのサポートや就農後に経営がより良くなるように支援を行っています。

また、果樹（ぶどう）担当として、生産者と直接接して、経営改善支援や産地の課題を解決できるように取り組んでいます。具体的には、生産量の向上を図るため、巡回指導や栽培講習会の開催のほか、産地の将来ビジョンづくり支援を行っています。

島根県職員として働く魅力は？

栽培技術の支援だけでなく、産地づくりなど様々な形で生産者に関わることができる点です。直接生産者に接する業務は、課題が様々で上手くいくことばかりではありませんが、生産者の経営や気持ちの変化を直に感じることができます。

また、就農相談から就農後のサポートまで、一人でできる仕事ではなく、多くの人が携わり、市町やJAも含めた関係機関で目標に向かって取り組めることも魅力の1つだと感じています。

ある1日のスケジュール

- 7:00 ● 起床
- 8:00 ● 通勤
- 8:10 ● 登庁
- 8:30 ● 始業、メール確認
- 9:00 ● 資料作成
- 10:00 ● 新規就農者との面談
（経営状況のヒアリング）
- 12:00 ● 昼休憩
- 13:00 ● 新規就農者の栽培指導
- 15:00 ● 対応記録作成
データ整理
- 17:15 ● 退庁
- 18:00 ● 帰宅



ぶどうの栽培管理の指導

【研究職】

持続可能な畜産経営の実現のため日々、研究に励んでいます

肉用牛生産の拡大を重点的に進めるため、消費者や購買者のニーズに対応する商品価値の高い畜産物生産に向け、付加価値の創出や飼養管理の高度化などの研究に取り組んでいます。

現在どんな仕事を担当していますか？

畜産技術センターでは、肉用牛（種雄牛、繁殖雌牛、肥育牛）と乳用牛を飼育しており、優秀な種雄牛の選抜・造成や繁殖雌牛や肉用子牛の生産性・飼養管理に係る研究、乳用牛や飼料作物に係る試験研究を行っています。

この他、就農希望者や畜産技術者を受け入れ、飼養管理技術や受精卵移植など繁殖技術の修得をサポートしています。

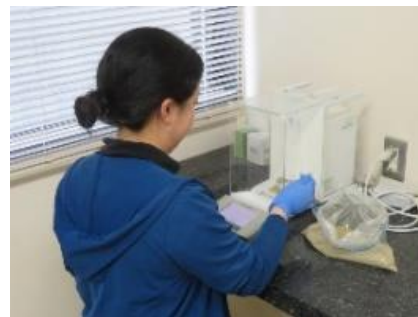
島根県職員として働く魅力は？

全国的に見ると島根県の畜産産出額は大きくはありませんが、県農業産出額に占める畜産の割合は大きいこと、畜産の関連業種も多いことから、島根県の農業や地元経済への貢献度は高いと思います。

畜産に関する自身の知見を高め、今後、夢と希望をもって畜産に従事する若者が増えるよう、その環境づくりに従事できることは大きな魅力です。

ある1日のスケジュール

- 6:30 ● 起床
- 8:00 ● 通勤
- 8:20 ● 登庁
- 8:30 ● 始業、スケジュール確認
- 9:00 ● 試験牛の観察、データ収集
- 12:00 ● 昼休憩
- 13:00 ● データ収集・分析
現地調査
- 18:00 ● 退庁
- 18:20 ● 帰宅



飼料の栄養価の分析



超音波画像診断で
子牛の発育状態を把握

【行政（本庁勤務等）】

農業に関する施策を企画・立案・実行します

担い手育成、農作物の振興、産地づくりなどを進めるための取組や支援策を企画・立案し、普及、研究とともにそれを実行します。

現在どんな仕事を担当していますか？

担い手の育成として、集落営農（※）の取組推進に関する提案や、補助事業に関する業務を行っています。集落営農の法人化や後継者の確保に力を入れており、地域にいる普及員や市町村・JAなどの関係機関の方々と連携しながら取組を進めています。

※集落営農…効率的な農地利用や機械・施設等の共同利用、共同作業などを通して、集落単位で協力して地域の農業を守っていく仕組み

島根県職員として働く魅力は？

県職員は2～3年毎に異動がありますが、異動の度に、農家の方や関係機関の方とのつながりが増えていくところが一番の魅力だと感じています。これまでの県職員生活で3地域を経験してきましたが、現在は、県全域の集落営農の方々とともに、地域の農業を守っていく仕事ができることにやりがいを感じています。

また、どの地域もとても住みやすく、異動の度に、また帰って来たいと思える場所が増え続けている感覚があります。県職員として働くことで、私自身も知らなかった島根の魅力にたくさん気付くことができました。

ある1日のスケジュール

- 6:30 ● 起床
- 7:45 ● 通勤
- 8:15 ● 登庁
- 8:30 ● 始業、メール確認
- 9:00 ● 電話対応
補助事業に係る資料作成
- 12:00 ● 昼休憩
- 13:00 ● 課内打合せ
- 15:30 ● 資料作成
- 17:15 ● 退庁
- 18:00 ● 帰宅



集落営農の取組推進について打合せ

3. 職員構成

出身大学

- ・ 島根大学
- ・ 鳥取大学
- ・ 岡山大学
- ・ 高知大学
- ・ 宮崎大学 など

年齢構成及び男女比

